

## Oracle WebCenter Content, Enterprise Capture & Imaging 12C 新機能

シンプル、スマート、スケーラブルなコンテンツ管理システム

### 新機能の概要

- 最新の高速なユーザー・インタフェースをアノテーション・サポートで拡張
- 再利用可能なUIフレームワークでビジネス・ポータル・アプリケーションの統合を強化
- 高度なデスクトップ統合
- スマートフォンおよびタブレット用のネイティブ・モバイル・アプリケーション
- すべてのコンテンツ管理アクティビティに対応する単一のコンテンツ・リポジトリ
- ビデオ・デジタル資産に対する追加のレンディション機能とサポート
- Enterprise Capture での高度な添付ファイル・サポート
- ハイブリッドECMとOracle Documents Cloud Serviceの統合

### おもな利点

- コストの削減 - ペーパーベースのドキュメントをデジタルに変換して、すべての非構造化コンテンツを1つのシステムで管理
- 効率の向上 - 企業全体での、信頼できる情報源の一本化、ビジネス・プロセスの効率化、コンテンツ・アクセスの容易化によって実現
- リスクの軽減 - 一貫性と可監査性を高め、ビジネス上のポリシーや規制に準拠し、コンテンツのセキュリティを確保
- 価値の創出 - アプリケーション、ビジネス・プロセス、部門にまたがったコンテンツの活用によってビジネスの敏捷性を強化

Oracle WebCenter Content Enterprise Capture & Imaging 12.2.1 は、コンテンツ管理が現代の企業インフラストラクチャの中核であるというビジョンを継続して実現しながら、従業員およびコンテンツ対応 'ビジネス・プロセスの能力を全社的に強化する柔軟性に優れたプラットフォームです。また、あらゆる種類の非構造化コンテンツの管理を効率化し、その管理機能を必要な場所（デスクトップ・ツール内、モバイル・デバイス上、ビジネス・アプリケーション内、ビジネス・プロセス内）で提供してユーザーの生産性を高めます。このドキュメントでは、Oracle WebCenter Content 12c の新機能を紹介しながら、このリリースが総合的な統合エンタープライズ・コンテンツ管理 (ECM) システムとして果たす約束について説明します。

### Oracle WebCenter Content Enterprise Capture & Imaging 12c/12.2.1 の新機能

WebCenter 12.2.1 リリースでは、Oracle WebCenter Content Enterprise Capture & Imaging に対して次の新機能と拡張機能が追加されています。

#### ユーザー・エクスペリエンス

Oracle WebCenter Portal では、モバイル Web ソリューション向けレスポンシブ UI デザインと特定のモバイル機器群をターゲットにしたアダプティブ・ページを組み合わせたことができるため、この独自プラットフォームを活用すれば、Bootstrap テーマ機能やネイティブ・デバイス機能、さらにはレスポンシブ UI デザインを採り入れたさまざまな OOTB コンポーネントも利用する、オムニチャネル・ソリューションを提供することができます。

- **ドキュメントのアノテーション:** WebCenter Content ドキュメント・ビューアで、表示中のドキュメントにアノテーションを直接付けられるようになりました。この拡張機能により、ドキュメントでの共同作業が容易になり、ドキュメントに直接コメントを付けることができます。おもな機能は次のとおりです。
  - 元のドキュメントとマークアップにアクセスできるユーザーを制御するユーザー・セキュリティ・モデル
  - マークアップ・ツールのパレット (ハイライト、テキスト・ボックス、付箋など)
  - 内部文書の機密情報を隠すための編集処理のサポート (元のドキュメントのダウンロードや表示を禁止することも可能)
- **高度なデスクトップ統合:** バージョン 12.2.1 のデスクトップ統合スイートでは、Office 365 (Microsoft Office 2013) の最新のデスクトップ・バージョンがサポートされます。この統合により、Microsoft Word や Excel などのドキュメント・アプリケーションを使用した管理対象コンテンツへのアクセス、管理対象リンクの挿入、管理対象ドキュメントの比較を、メニューから実行することができます。さらに、生産性フォルダを通じて、ワークフロー受信ボックス、保存した検索、およびチェックアウトしたコンテンツを、Windows エクスプローラから直接表示できます。

- **モバイル・デバイスのサポート**：バージョン 12.2.1 の WebCenter Content Mobile アプリケーションにより、移動中もエンタープライズ・コンテンツにアクセスできます。この Oracle WebCenter Content 12c の最新リリースには、最新の iOS (5 と 6) および Android デバイスに対応したネイティブのモバイル・アプリケーションが含まれており、スマートフォンやタブレットからコンテンツを簡単に検索し、表示し、共有できます。
- **最新のポータル・コンテンツ・ユーザー・インタフェース**：Oracle WebCenter Content の再設計されたユーザー・インタフェースが WebCenter Portal でサポートされるようになりました。WebCenter Portal のユーザーは、クリーンで高速で直感的な新しい WebCenter Content UI を利用できます。コンテンツの検索、コンテンツ情報の表示、コンテンツでの共同作業を容易に行うことができます。また、実行頻度が高いアクション（チェックイン、チェックアウト、ダウンロード、お気に入りへの登録、リンクの設定、プロパティの表示、類似ドキュメントのアップロードなど）にワンクリックでアクセスできます。
- **ごみ箱のサポート**：12.2.1 のネイティブ UI で、新しいフォルダ技術に対応したユーザーごみ箱がサポートされるようになりました。これにより、エンドユーザーは削除したファイルをごみ箱から簡単に復元できます。

#### デジタル資産の管理

- **ビデオの変換**：WebCenter Content 12.2.1 では、Telestream 社の最新のビデオ・トランスコード製品 Vantage がサポートされます。Telestream の Vantage 製品は、業界最高の最新ビデオ変換パッケージの 1 つです。Vantage は、マルチプラットフォーム配信（ブロードキャスト、ケーブル、VOD、IPTV、マルチスクリーン OTT）に対応したクラス最高のビデオ・トランスコード製品ファミリを提供します。Vantage トランスコード製品は、最新の技術を利用して、極上の品質と並外れた処理速度、また業界でもっとも幅広いワークフローの自動化とシステム・サポートを実現します。

さらに WebCenter Content 12.2.1 では、その他のサード・パーティ・ビデオ・トランスコーダを組み込むこともできます。現在 WebCenter Content では、コマンドライン・インタフェースに基づくプラグブル・フレームワークを使用して、他のサード・パーティ・ビデオ・トランスコーダ（FFmpeg など）を追加することができます。このプラグブル・フレームワークにより、ユーザーはビデオのトランスコード方法を選択できるようになります。

#### Enterprise Capture、Forms Recognition、および Imaging

- **Enterprise Capture クライアントの新機能**：
  - 非イメージ・ドキュメントをネイティブ・アプリケーションで表示する機能
  - バッチ内でのドキュメントの検索と選択
  - デスクトップ・アプリケーションのサポート（Web ブラウザの外部でアプリケーションを実行）
  - ドキュメントまたはページの複製：バッチ内でのドキュメントまたはページのコピー
  - イメージ・ドキュメントまたは非イメージ・ドキュメントの詳細情報（ファイル・パス、ファイル名、ファイル・サイズ、DPI など）を表示する機能

- Enterprise Capture サーバーの新機能：
  - キャプチャ・ワークスペースを新規に作成する WLST コマンドと、既存のワークスペース・オブジェクト（クライアント・プロファイル、サーバー・ジョブ、コミット・プロファイルなど）のプロパティを変更する WLST コマンドのサポート
  - 外部変換プログラムでのドキュメント変換のサポート
- 新たなドキュメント添付ファイルのサポート：
  - 添付ファイルの新たな分類のサポート：添付ファイル・タイプ
  - クライアントでの添付ファイルの作成、変更、リスト、表示のサポート
  - ドキュメント変換プロセッサ：添付ファイルを無視または変換するための追加機能
  - 認識プロセッサ：階層セパレータ・ページを使用した添付ファイルの作成
  - WebCenter Content およびテキスト・ファイルへの添付ファイルのコミット
  - 添付ファイルをバッチでエクスポートできるようにするための WLST コマンドの更新

#### ハイブリッド ECM – Oracle Documents Cloud Service との統合

- WebCenter Content と Oracle Documents Cloud Service の統合：
 

WebCenter Content のユーザー・インタフェースに Oracle Documents Cloud Service からコラボレーション・フォルダを組み込んで、Oracle Documents Cloud Service での共同作業を体験できます。WebCenter Content のユーザーは、Oracle Documents Cloud Service への認証を受けることなく Oracle Documents Cloud Service にアクセスできます。WebCenter Content インタフェースでは、次のことが可能です。

  - コラボレーション・フォルダ内のコンテンツを内部または外部のユーザーと共有する
  - コンテンツをデスクトップと同期する
  - WebCenter Content と Oracle Documents Cloud Service の間でコンテンツをコピーする

これにより、WebCenter Content のポリシー、ワークフロー、レコードの管理を、Oracle Documents Cloud Service で発生したコンテンツにも適用できます。
- WebCenter Enterprise Capture 用の Oracle Documents Cloud Service Commit Driver：Oracle Documents Cloud Service にイメージがコミットされるように WebCenter Enterprise Capture (WEC) を構成できるようになりました。これにより、オンプレミス・リポジトリのライセンス提供、インストール、セットアップ、保守が不要となります。これによりユーザーは、初期のコストと手間を省きながらキャプチャ・ソリューションを迅速に展開できます。また、Oracle Documents Cloud Service のユーザーが WEC を使用して Oracle Documents Cloud Service にドキュメントをロードすることも可能になります。たとえば、イメージをスキャンしたり、特定のアドレスに送信された電子メールを Oracle Documents Cloud Service にアップロードしたりできます。

### 最新のエンタープライズ・プラットフォームのサポート

- WebCenter Content 12.2.1 では、最新のエンタープライズ技術がすべてサポートされます。
  - Red Hat Enterprise Linux 7 – 64 ビット
  - Oracle Enterprise Linux 7 – 64 ビット
  - Suse Enterprise Linux 11
  - Microsoft Windows Server 2012 R2
  - IBM AIX 7.1
  - Oracle Database 12.1.0.1 以上
  - IBM DB2 10.5
  - Microsoft SQL Server 2012
  - Oracle Java/JDK 1.8.0\_51 以上
  - Microsoft Internet Explorer 11
  - Mozilla Firefox 31 以上
  - Google Chrome 43 以上
  - Apple Safari 8.\*

### お問い合わせ先

Oracle WebCenter Content について詳しくは、[www.oracle.com/goto/webcenter/content](http://www.oracle.com/goto/webcenter/content) を参照するか、+1.800.ORACLE1 でオラクルの担当者にお問い合わせください。



Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、記載内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle および Java は Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴおよび AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。0113

**Hardware and Software, Engineered to Work Together**

**ORACLE®**